

第 35 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム社会科学学生賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は当論文賞受賞時のものです。

佳作

「人口減少社会と視聴者の流動性を背景とした民放構造規制の展望」

(東北大学大学院情報科学研究科 博士学位論文, 2019 年 1 月)

橋本 純次 社会情報大学院大学 広報・情報研究科 助教

本論文は、人口減少と東京への一極集中の中で、地方テレビ局を如何に維持するかという論点を、アンケート調査とインタビューを踏まえて研究し、具体的な提言をしている労作として評価できる。地方局は東京キー局に全面的に経営依存している実態があること、筆者の年代の若者はそもそもテレビを殆ど見ないこと、OTT による攻勢に対抗するためには、通信放送融合的なサービスに進出するなど、より根源的な改革が必要であることからすると、提言に物足りなさを感じた。より研究を深められることに期待する。

佳作

「青年期女子のインターネットを介した出会いの様相－刹那的人間関係に注目して－」

(未発表論文)

片山 千枝 金沢大学 大学院人間社会環境研究科 博士後期課程 3 年

本論文は、インターネットを介した出会いというデリケートなテーマに果敢に取り組んだ力作であり、青年期女子の「出会い経験者」にインタビュー調査を行い、そのような出会いが「刹那的人間関係」になりやすいということを説得的に明らかにしている。今後、調査協力者の規模を広げたり、分析の客観性をより高める工夫をすることで、研究のさらなる発展、深化が期待される。